５．上河北江原町遺跡（かみこぎたえはらまちいせき）

所 在 地：上河北江原町遺跡
調査原因：一般県道徳光福井線道路改良工事
調査期間：令和２年５月１日～９月 30 日
調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
調査面積：1,700 ㎡
時　　代：弥生・古墳時代

位置図（S＝1/50,000）

調査の概要　上河北江原町遺跡は、福井平野の東南部、上河北の集落とその西側に広がる遺跡です。遺跡の範囲内で一般県道徳光福井線道路改良工事が行われることになったため、令和元年度から令和２年度にかけて発掘調査を行いました。

遺構　掘立柱建物の跡・方形周溝墓（弥生時代のお墓。溝を四角く巡らしたもの。）・溝・土坑・ピットを見つけました。調査区北側に自然河川が存在します。その南側に掘立柱建物跡を含むピット群が密集します。さらにその南側では、やや遺構密度の少ない部分を挟み方形周溝墓１基が存在します。その南側には自然河川が存在し、その自然河川の南側に方形周溝墓１基と溝が分布します。

主な遺構である掘立柱建物跡はその周辺や柱穴からの出土土器から弥生時代後期を中心とした時期のものと考えられます。方形周溝墓は２基見つかりました。１基は出土土器から弥生時代中期に属するものと考えられます。もう１基の時期は不明です。自然河川は、調査区北側と中央付近に認められます。自然河川からは弥生土器が見つかっています。そのことから、遺跡の存続時期をとおして存在したことがわかります。自然河川にほぼ併行する溝を数条確認しています。それらは、集落の区画溝として機能していたものと考えられます。

遺物　弥生土器・土師器・須恵器などを見つけました。それらは、弥生時代から古墳時代にかけての時代のものです。

まとめ　上河北江原町遺跡は、弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての集落跡であることが明らかになりました。建物とお墓が明確に場所を違えて配置されていますので、区画意識が読み取れます。掘立柱建物跡は、重複しているものがありますので、短期的な集落ではなく、ある程度の時期にわたって営まれた集落であったことがわかります。　（白川　綾）

調査区南側全景　南から

柱痕・礎板出土状況　東から

掘建柱建物跡検出状況　西から

土坑遺物出土状況　南から

方形周溝墓完掘状況　西から

溝遺物出土状況 西から

溝遺物出土状況　西から

溝遺物出土状況　西から